

ANNUAL REPORT 2020

(公財)静岡県文化財団 2020年度年次報告書



公益財団法人静岡県文化財団

〒422-8019 静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号 TEL.054-203-5710 FAX.054-203-5716 <https://www.shizuoka-cf.org>

グランシップ <https://www.granship.or.jp> アーツカウンシルしずおか <https://artscouncil-shizuoka.jp>

●令和3年度発行 ●デザイン監修/甲賀 雅章 ●デザイン/北村 善行

公益財団法人静岡県文化財団は、個性豊かな県民文化の振興を図り、もって県民生活の向上と活力あふれる郷土づくりに寄与する目的として、昭和59年5月22日に静岡県及び県内の市町村、県民の皆様からの出捐により設立されました。その後、学術、文化及び芸術の振興と国内外の交流を図る静岡県コンベンションアーツセンター グランシップの管理運営にかかる指定管理を受託し、現在に至ります。

令和2年度(2020年度)は、新型コロナウイルスの感染拡大に加え、特定天井対策工事によるグランシップの全館休館という制約の中で、県内の文化の灯を絶やさなため、県や地域と連携した上で様々な対策・対応を講じて事業を展開しました。

また、東京オリンピック・パラリンピック静岡県文化プログラムのレガシーを引き継ぐ「アーツカウンシルしずおか」を令和3年1月に設置し、令和3年4月からの本格稼働に向けて準備を整えたところです。

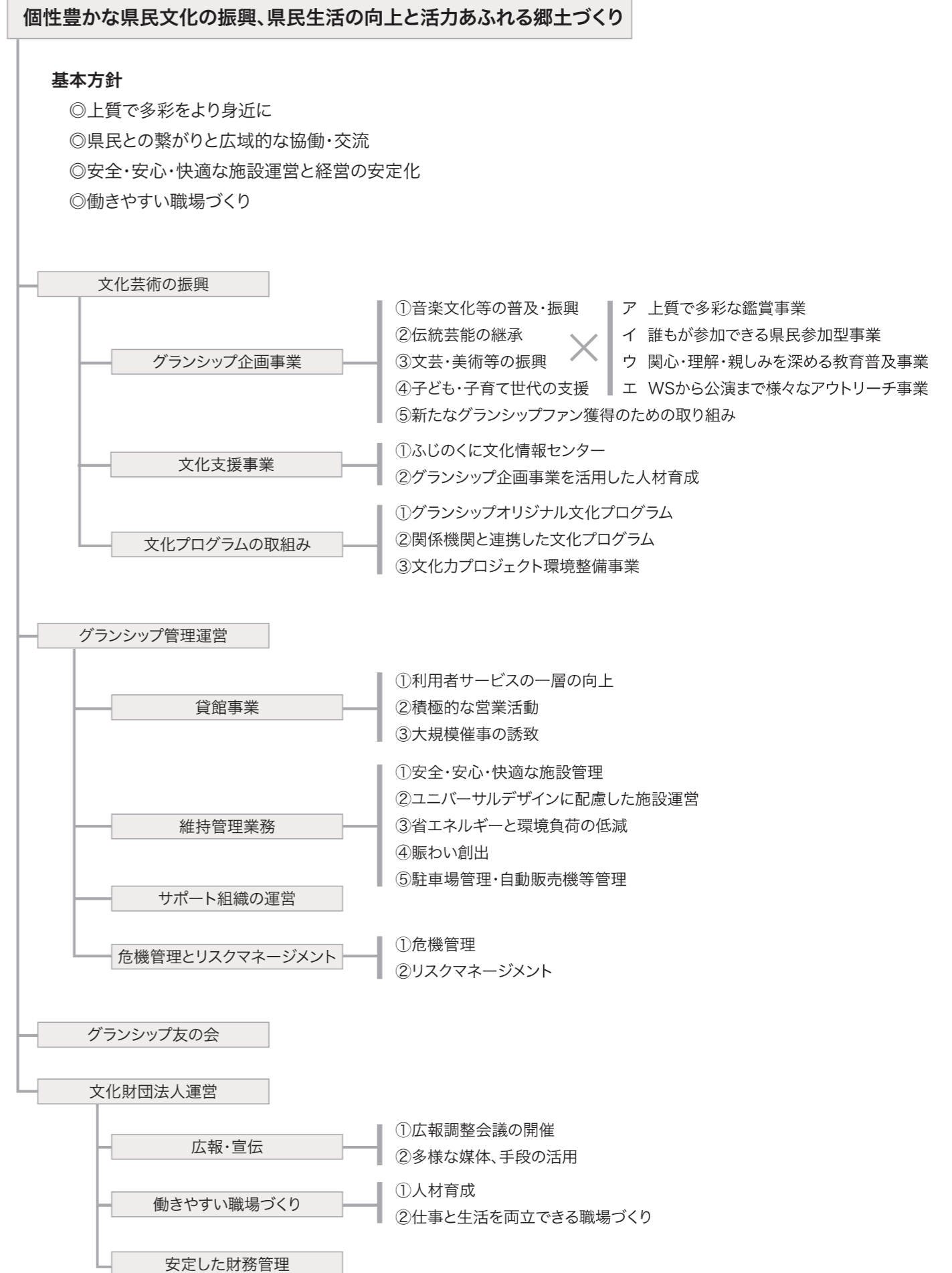
新型コロナウイルス感染症の影響は依然として大きく、私たちが拠点とするグランシップを取りまく状況も一変しましたが、文化事業を実施し継続していくことに重きを置き、運営した1年となりました。

その歩みを御高覧いただければ幸いです。

公益財団法人静岡県文化財団 理事長 鈴木壽美子

CONTENTS

事業体系図	02
令和2年度TOPICS	03
TOPICS① コロナがもたらした事業への影響と新たな試み	05
TOPICS② 文化支援の取り組みとアーツカウンシルしずおかの設置	14
TOPICS③ 特定天井対策工事に伴うグランシップ休館	16
事業報告	17



TOPICS ① コロナがもたらした事業への影響と新たな試み

グランシップを拠点に開催が予定されていた東京オリンピック・パラリンピック静岡県文化プログラムは、残念ながらその多くが中止・延期を余儀なくされた。しかし、全国に発出された緊急事態宣言解除後の5月30日に開催した「あおぞらコンサート」は、県内及び全国に先駆けて子どもたちが生演奏の音楽に触れる機会を取り戻し、コロナ禍での主催事業のあり方を示す第一歩となった。

また、グランシップ出前公演では地域の施設との連携や状況に応じた内容の再検討、オンラインの活用、感染防止策を講じるなど、様々な工夫を凝らして事業を展開した。

グランシップ貸館事業では、新型コロナウイルス感染症の影響による利用キャンセルの対応、収容人数の大きな会議室等への会場変更、安全安心な利用のためのアルコール消毒や検温などの感染拡大防止対策により、当館を利用される県民の皆様へ寄り添って催事の開催を支援した。



TOPICS ② 文化支援の取り組みとアーツカウンシルしずおかの設置

コロナ禍におけるアーティスト緊急支援のため県補助事業「ふじのくに#エールアートプロジェクト」に取り組み、ふじのくに文化情報センターが6年間の歩みで培ったノウハウを活かして、401件の相談事業・109件の助成事業を行った。

令和3年1月には静岡県文化プログラムのレガシーを引き継ぐ「アーツカウンシルしずおか」を設置し、4月に本格稼働。ふじのくに文化情報センターは令和3年3月でその役目を終え、新組織へバトンを渡した。



令和3年4月1日開所式

TOPICS ③ 特定天井対策工事に伴うグランシップ休館

改正された耐震基準を満たすためのグランシップ特定天井対策工事が計画通り行われ、9月8日から令和3年2月28日まで全館休館した。3月以降は会議ホール・風、交流ホール、中ホール・大地は工事継続のため一部休館とし、令和3年10月の全館リニューアルオープンまでに順次再開する。

休館期間中は、グランシップ利用者の利便性をさらに高めるため、貸館相談窓口の移設、照明設備及び備品の更新・修繕等を行い、より快適な貸館利用を実現した。



中ホール(改修前)



中ホール(工事の様子)

時代に合わせ、私たち静岡県文化財団が、文化芸術が、できることを模索

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、全国に緊急事態宣言が発令され、グランシップも4月18日から5月10日まで臨時休館となった。例年5月は、「グランシップこどものくに」、「グランシップトレインフェスタ」等が開催され、子どもたちで賑わうが、令和2年度は両イベントは開催中止に。誰も経験したことのない状況の中、社会情勢に合わせ、私たち静岡県文化財団が、文化芸術ができること(オンライン他の取り組みや感染対策を講じた事業のあり方)を模索し続けることとなる。

ステイホームでも楽しめる工夫を

おうちでグランシップこどものくに

5月3日(日・祝)～6日(水・休)(公開期間5月2日(土)～31日(日))

オンライン 1,104人

外出自粛が呼びかけられる中、子どもたちが「つくる」「さわる」「あそぶ」をおうちで家族と一緒にできるよう、グランシップサポーターが考えた、ストローや紙コップなどの身近な材料でできる「こどもあそび」の動画をグランシップホームページで紹介した。



オンライン上で鉄道の魅力を改めて共有し合う

おうちでグランシップトレインフェスタ

5月16日(土)・17日(日) オンライン 98,584人

自宅でも鉄道模型や鉄道の魅力を楽しめるよう、鉄道模型を中心に鉄道にまつわる写真・動画の投稿を募集。WEB上で「鉄道文化」の魅力を共有した。大変な盛り上がりを見せ、一時は「#おうちでグランシップトレインフェスタ」がTwitterのトレンド入りとなり、翌年の開催への願いが込められた投稿も多数寄せられた。



ステイホームから新しい生活様式を取り入れた屋外でのコンサートへ

グランシップ あおぞらコンサート

5月30日(土) グランシップ 芝生広場 (2公演) 216人

静岡県に発令されていた緊急事態宣言解除後、はじめて新しい生活様式に沿って小さな子どもたちのためのミニコンサートを開催。“おうちで過ごす”生活を頑張った子どもたちが、少しでも気分を開放して生演奏の音楽に触れられる機会として、主催事業再開の第一歩を踏み出した。当日は天候に恵まれ、アーティストの奏でる優しい音色に合わせ、子どもたちは満面の笑みで体を動かし、子どもも大人も一時の心休まる時間を過ごした。



直接触れられることへの感謝と喜びに気付く

【グランシップ子どもアート体験!】人形浄瑠璃文楽 出前講座

6月30日(火) 磐田市立竜洋中学校 185人(3年生5クラス、教員15人含む)

舞台と客席の距離を広げ、太夫台にビニールシートを設置するなど、いつもと違う拵えで実施。はじめての文楽体験、太夫の声の迫力や合わせて響く三味線の音や、生きているかのようにリアルな動きを見せる人形に、会場の目は釘付けに。学校行事も激減した中で、直接伝統芸能に触れられたことへの感謝や大きな喜びに改めて気付く機会となった。



貴重な伝統芸能を直接見る機会をもらえ、感動した。(生徒)

伝統を後世に残すよう、私たちが、まず知ることから始めなければと思った。(生徒)

進路を考える時、このような道を選ぶこともあるということも含め、大変意義深かった。(先生)

映像では味わえない臨場感に、公演を生で見る意味を改めて感じた。(先生)

全ての準備が整った開催2日前に中止。それでもできることを探す

ふじのくに伝統芸能フェスティバル特別公演(中止)

「夏越の奏～天の鼓～」

7月19日(日) グランシップ中ホール・大地

(一部関係者のみ) 出演9人(3年生)、入場36人

各地域で伝統芸能の公演の中止、民俗芸能団体の多くが活動自粛を余儀なくされている状況を受け、特別公演を企画。能楽師による半能「天鼓」の披露とともに、民俗芸能団体の活動を紹介しながら、改めて芸能の意義やこれからの考えるプログラムを予定した。「新しい生活様式」をどのように取り入れるのかを検討し、華道家の辻雄貴氏に空間演出を依頼。

開催2日前。静岡県の警戒レベル引き上げにより、県外から出演者を招聘することができなくなり、やむなく公演の中止を決定した。

しかし、出演団体のひとつである、駿河総合高校和太鼓部の保護者のみを観客とする、20分間の限定公演を実施。「この空間が、激動する時勢の先にある未来のあり方を見出す特別な場になるよう創りました。」という辻氏の言葉の通り、コロナ時代の公共ホールのあり方を改めて考える機会となった。

《タイムライン》

4/1	政府「全世界からの入国者に2週間の待機要請」決定
4/2	●5/31までの全ての主催公演、イベント4件を中止・1件延期発表
4/7	7都府県に緊急事態宣言
4/10	●6/23「国立劇場歌舞伎鑑賞教室」中止を発表
4/13	●8/2「グランシップ音楽の広場2020」中止を発表
4/16	「緊急事態宣言」全国に拡大 13都道府県は「特定警戒都道府県」
4/17	●4/18～5/6「グランシップ臨時休館」を発表
4/18	国内の感染者 1万人超える
4/18～5/6	●グランシップ臨時休館
5/4	政府「緊急事態宣言」5/31まで延長
5/6	●臨時休館について再開を延期
5/11	●グランシップ再開
5/14	政府 緊急事態宣言 39県で解除 8都道府県は継続 全公文「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を策定
5/15	静岡県 6段階警戒レベルとレベル毎の行動制限を決定・公表する「ふじのくにシステム」を導入
5/21	緊急事態宣言 関西は解除 首都圏と北海道は継続
5/22	体温チェッカーをエントランスに設置
5/25	約1か月半ぶりに全国で緊急事態宣言解除
5/30	●小さな子どもたちのための「グランシップあおぞらコンサート」全2回 実施(芝生広場)
6/12	●7本の主催・共催・提携公演、イベントの中止・延期を発表 5/31静岡県文化プログラム「ふじのくに伝統芸能フェスティバル(富士宮市)」翌年度に延期/特別公演を7月に実施 8/22～9/6「グランシップ誰もがWonderfulアート」展覧会中止 ほか
6/19	都道府県またぐ移動の自粛要請 全国で緩和
6/27	●「グランシップ文化講座A」実施(1001-1会議室) 3/22より延期、講師2名オンライン出演
6/30	●人形浄瑠璃文楽 出前講座(磐田市立竜洋中学校)
7/3	●主催公演2本中止を発表 9/11出前「カニサレス～情熱のフラメンコ・ギター」中止(焼津市) 10/16出前「ウィーンの風～ウィーン・アンサンブル」中止(浜松市)
7/5～8/2	●【期間限定】グランシップ音楽の広場+(プラス)特設ページ開設
7/12	●「グランシップ音楽の広場+(プラス)」、スペシャル映像収録(大ホール・海)
7/17	県の警戒レベル3に引き上げ ●7/19特別公演「夏越の奏～天の鼓～」の公演中止を決定 (県の警戒レベル引き上げにより東京から出演者を招聘できなくなった為)

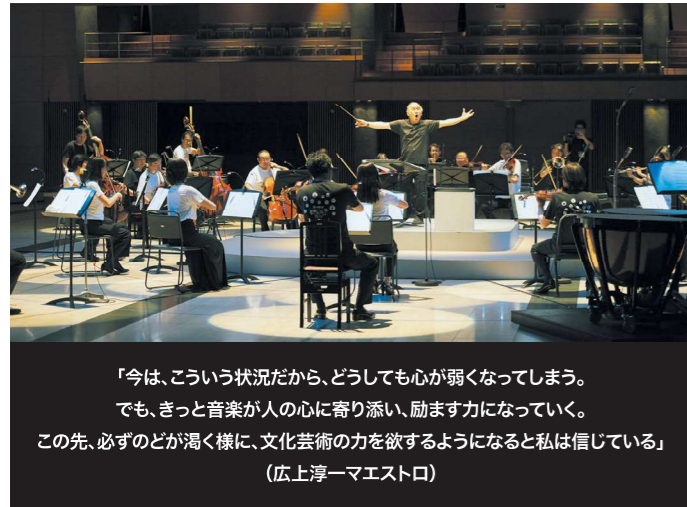
※OR…アウトリーチ、WS…ワークショップ、催事名一部省略



**ゼロにはしたくない。この時代に合った方法で、文化芸術と人との接点を創りたい
グランシップ音楽の広場+（プラス）**

7月5日(日)～8月31日(月) オンライン 11,253人閲覧

思いをゼロにはしたくない、と翌年へと気持ちをつなぐオンライン企画。出演を予定していた演奏家のメッセージ動画やこれまで年輪のように育まれたレガシーの数々をアーカイヴとして蓄積した。7月には、無観客の大ホールで、広上マエストロをはじめ「グランシップ音楽の広場」に縁の深いプロアマ36人による「不尽の山を望る歌」の演奏を収録。公演を予定していた8月2日にスペシャル映像として公開した。



「今は、こういう状況だから、どうしても心が弱くなってしまふ。でも、きっと音楽が人の心に寄り添い、励ます力になっていく。この先、必ずのどが渾く様に、文化芸術の力を欲するようになると私は信じている」
(広上マエストロ)



**主催事業として約半年ぶりとなる大ホール・海でのコンサートを県民参加で創る
グランシップ ビッグバンド・ジャズ・フェスティバル2020**

8月9日(日) グランシップ 大ホール・海 487人

5月より、どのようにしたらこの大型イベントを実施できるのか、相談を重ねた。グランシップサポーターも「新しい生活様式」に従って、お客様をどのように安全にお迎えするか話し合いをしながら準備を進め、本番を実施。

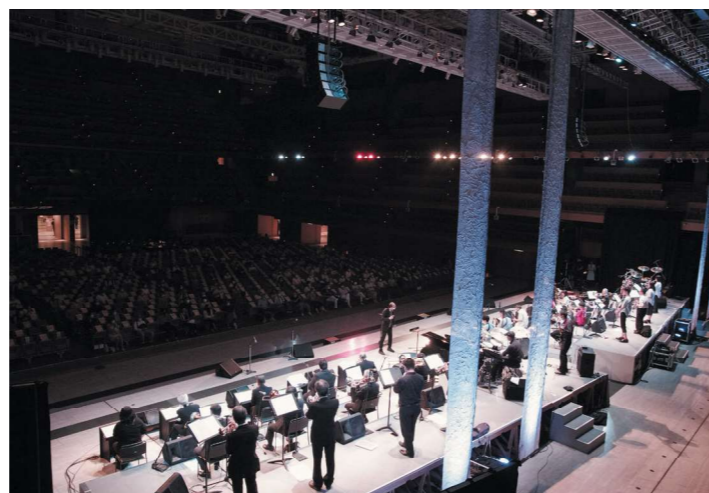
当初、近年では最多の12バンドが出演を予定したが、感染再拡大の影響により、ゲストヴォーカルの出演を中止し、6バンドが出演辞退を決めた。それでも大ホール・海での主催事業が約半年ぶりに実現した。



音楽は生きていく上で必要なもの！(来場者)

対策が徹底していて安心して鑑賞できた。(来場者)

半年ぶりのステージに胸が熱くなり、涙が出た。(出演者)



《タイムライン》

7/26	国内の感染者 3万人を超える(クルーズ船除く)
7/28	県の警戒レベル4に引き上げ
8/3	●12/5「シュトゥットガルト室内管弦楽団」中止発表(焼津市)
8/11	世界の感染者2000万人を超える
8/18	●8/29「山川静夫のここがみどころ・ききどころ」の延期発表 延期に伴うチケット払い戻し実施
8/29・30・9/5・6	●「令和3年につなげるための グランシップ誰もがWonderfulアートWS」実施(6階 交流ホール・展示ギャラリー)
9/8	グランシップ特定天井対策工事による全館休館開始(R2年2月まで) 県内公立ホールと協力し、出前公演として主催事業実施
9/11	県の警戒レベル更新、東京との移動「回避」が「特に慎重に行動」に緩和
9/19	イベント開催制限緩和 屋内、屋外共に5,000人以下
9/25	●「グランシップアウトリーチ登録アーティストORオンライン」で実施(静岡県立中央特別支援学校)

**この先の、より良い「グランシップ 誰もがWonderfulアート」への準備として
令和3年につなげるための
グランシップ 誰もがWonderfulアート ワークショップ**

「アート⇔他者を思いやる力：親子で貼り絵を楽しもう！」
福井場 8月29日(土)・30日(日)

「今、人と人がつながるための即興ダンスワークショップ」
岩下徹 9月5日(土)

「目をつむるスタジオ
～令和3年『目をつむる写真展—つむるつながる』に向けて～」
成実憲一 9月6日(日)

成実憲一 9月6日(日)
グランシップ 6階展示ギャラリー、交流ホール 計170人

文化芸術によって人と人がつながる場を作りたいと、ポストコロナに思いを馳せ、アートの楽しみ方を体験しながら学ぶ貼り絵WS、障がいの有無も、ダンス経験も関係なく「離れていてもつながる」あり方を探るダンスWS、様々なバックグラウンドを持つ人々の「目をつむる」写真の展示と、「目をつむる」写真を撮影するWSを開催した。そこで生まれた新たな交流は、来年の展示開催に向けてつながる希望を生み出した。



作品を作る上で大事にしているのは、完成ではなく、作る過程の中で気づくこと。答えが用意されていない中でも、自分の答えを見つけ、勇気を出して行動してみよう。
(福井場)

「なにもない空間」に集まった人同士が同じ空間を共有することで、多様な身体が生まれ、それが決して意図したものにはなくても、参加者の身体から「あらわれてくるもの」を待つことが大切。(岩下徹)

目をつむると、普段見られない表情が映し出されます。その表情から、その人の新たな一面に気づくことができる。多様な価値観を持った他者を受け入れていくことは、アート、文化、福祉の大切な役割。(成実憲一)

中止以外の出口を求めて。生徒が音楽に触れる機会を創出する

【グランシップ子どもアート体験!】
グランシップアウトリーチ登録アーティスト ミニコンサート

(5校:特別支援学校3、小学校2) 計231人

9月25日(金) 静岡県立中央特別支援学校 54人(中等部生徒、教員12人含む)

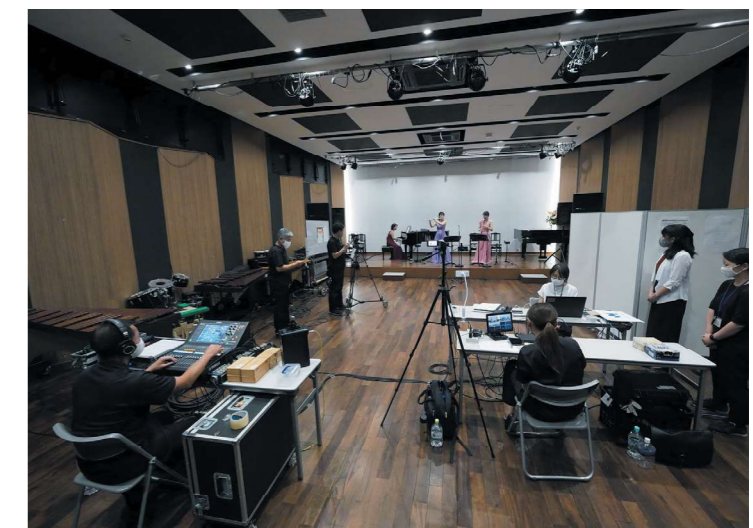
感染拡大の影響により、学校敷地内でのコンサートができなくなった。しかし、ただ中止するのではなく、生徒が音楽に触れる機会を何とかつくることのできないか、という声に、学校、アーティストと相談しながら、一方的な配信ではなく、もう一歩踏み込み、双方向でコミュニケーションをとれるリモートコンサートとして実施。直接楽器に触れることはできなくとも、やり方次第で、子どもたちには多くのことが伝わることを実感した。

曲に合わせて踊るなど、笑顔になる場面が見られた。(先生)

現状でできる最高の取り組みで、大変楽しむことができた。(先生)

知っている曲があって、聞くのに夢中になった。また聞きたい。(生徒)

コロナが終わったら、今度は、生で演奏を聞いてみたい。(生徒)



県内各地の会館と連携し、出前公演で文化芸術を届ける

9月8日からグランシップは特定天井対策工事のため全館休館。その期間、県内各地に文化芸術を届けるべく、地域の公立文化施設等と連携し、新しい鑑賞様式への取り組みを検討しながら、様々な公演を実施。普段グランシップに足を運ぶ機会の少ない地域の方にも上質で多彩な、音楽公演や伝統芸能に親しむ劇場体験を届けた。また、アウトリーチにおいては、相手のニーズに合わせたオリジナル性の高いプログラムを実施し、子どもたちはもちろん、先生方からも厚い信頼と高い評価を得た。

古典芸能は、言葉を交わすことなく、心を通わせることができる

【出前公演】グランシップ静岡能 能楽入門公演

9月26日(土) 菊川文化会館アエル 365人

能楽師の山階彌右衛門氏は解説の中で「コロナ禍で能楽は不要不急なものと考えられているかもしれない。しかし、人と人とのつながりを断ち切るような世界だからこそ、能楽のような古典芸能が必要である」と語り、古典芸能の意義を強調した。また、公演を開催することは、出演者だけでなく、その裏方スタッフを支える側面もあることを説明。「古典芸能を皆さんに楽しんでもらいながら応援してほしい」と文化芸術への支援を訴え、会場からは呼応するように大きな拍手が起こった。



1か月の延期により、内容の変更なく開催

【出前公演】「人形浄瑠璃 文楽」事前レクチャー

山川静夫のここがみどころ・ききどころ～文楽人形遣いにせまる～

9月29日(火) 焼津文化会館 135人

当初8月26日に開催予定だった本公演は、約1か月延期したことで、9月11日に県の警戒レベルが緩和されたため、出演者の来静が叶い、内容の変更なく実施できた。演目の見どころ紹介に加え、人形の解説・実演があり、会場からは「文楽の公演がより楽しみになった」、「山川さんや技芸員から、元気をもらった」という声も。



住まいの近くで行われたから、はじめて体験する機会を得た

【出前公演】人形浄瑠璃 文楽

10月11日(日) 大井川文化会館ミュージコ (昼夜2公演) 632人

全国的に人形浄瑠璃 文楽の地方巡業の公演中止が相次ぐ中、静岡県では焼津市で昼夜2公演を実施。物語に入りやすいよう開演前の解説を経て、昼の部は、祝言の舞であり華やかで楽しい「二人三番叟」で幕が開いた。「住まいの近くで行われたから、はじめて鑑賞した」という声から、出前公演が日本の伝統芸能に触れるきっかけになったといえる。



日本の芸術の魅力、芸術家の物事に対する姿勢、考え方、経験を伝え、地域と連携して普及することを目指す

【グランシップ子どもアート体験!】伝統芸能普及プログラム 狂言ワークショップ

10月15日(木) 御殿場市立富士岡小学校 108人(6年生)

学校の先生に代わり狂言方が教壇に立ち、国語の教科書を用いて、狂言の歴史や、能舞台・道具について紹介。体育館では、能舞台に見立てた舞台で、子どもたちは能の特徴的な動きである摺り足を体験し、最後に狂言「棒縛」を鑑賞。本物の装束で繰り広げられる迫力に驚いた様子だった。それぞれの実情に合わせた内容で、各地域の文化施設や教育機関と協力することの意義を再確認した。



今まで、伝統芸能に全くと言っていいほど興味がなかったが、本物はこんなに面白いものだと知ることができたので、本やインターネットで調べてみようと思った(児童)

狂言は、私が日本の文化に興味を持ったための道をひらいてくれた(児童)

動画ではふつうだなと思っていたけれど、実際には、すごくみりよく感じた(児童)

「生」で観ることは何ものにも代え難い経験である(先生)

映像で見ると実際に観るものとは、肌で感じるものが違う(先生)

【タイムライン】

9/26	●出前「グランシップ静岡能 能楽入門公演」実施(菊川文化会館アエル)
9/29	●出前「文楽事前レクチャー 山川静夫のここがみどころ・ききどころ」実施(焼津文化会館)8/26より延期
10/11	●出前「人形浄瑠璃 文楽」実施(焼津市大井川文化会館ミュージコ)
10/14	フランスが3か月ぶりに非常事態を宣言
11/6	県警戒レベル4に引き上げ(浜松市、伊豆の国市のクラスター発生を受けて)
11/12~14	●しずおか連詩の会 3日間の創作開始(裾野市)
11/14	●出前「楽しい音のひびきコンサート」実施(掛川美感ホール)(完売)
11/15	●出前「しずおか連詩の会in裾野」実施(裾野市民文化センター)
11/18	国内・東京都感染者数 過去最多で感染状況を最高レベルに引き上げ 感染流行期が「感染移行期・後期」から「感染まん延期・前期」に移行
11/20	政府分科会「Go Toキャンペーン」見直しなど政府に求める提言
11/26	●グランシップアウトリーチ登録アーティストOR実施(沼津視覚特別支援学校)
11/27	県の警戒レベル静岡市・浜松市はレベル5(特別警戒)相当「感染まん延期・中期」
11/28	●出前「マチネの終わりに」実施(袋井市月見の里学遊館)(完売)
12/3	大阪府「医療非常事態宣言」重症患者の急増で不要不急の外出自粛要請
12/6	●出前「渡辺貞夫バップナイト」実施(浜北文化センター)
12/11	県警戒レベル上で、年末年始の不要不急を控えるよう呼びかけ
12/15	GoToラベル全国一時停止へ 地域限定の対応から方針転換
12/17	都の医療提供体制 最も高い警戒レベルに 初の引き上げ

小さな子どもたち、子育て世代に届けたい生演奏のひびき、音楽の楽しさ

【出前公演】0歳から聴こう!楽しい音のひびきコンサート

11月14日(土) 掛川市美感ホール 146人

コロナ禍において、生の演奏に触れる機会が減ってしまったのは小さな子どもたちも例外ではない。子育て世代の関心が高く、チケットは早々に完売。テレビやインターネットの画面越しとはひと味違う目の前で演奏に、子どもたちは全身で反応し、たくさんの親子連れの笑顔が会場に溢れていた。



リモートを取り入れながらも、富士のすそので、時代を反映するどんな詩が生まれたのか

【出前公演】2020年しずおか連詩の会 in 裾野

11月15日(日) 裾野市民文化センター 113人

連詩とは、複数人で短い詩をリレーのように連ねていく創作現代詩。連詩を提唱した三島市出身の詩人・大岡信が晩年を過ごした裾野市で初めて開催した。コロナ禍により、一部リモートでの創作を取り入れ、『天女の雪蹴り』と題した40編の詩が巻かれた。



多くの人々がライブを欲して

【出前公演】本と音楽の素敵な出会い「マチネの終わりに」

11月28日(土) 袋井市月見の里学遊館 260人

【出前公演】グランシッププレミアム・クリスマス・ジャズ・ライブ 渡辺貞夫

12月6日(日) 浜松市浜北文化センター 546人

文学と音楽のジャンルをクロスオーバーした「本と音楽の素敵な出会い『マチネの終わりに』」、日本ジャズ界のレジェンドが登場する「SADAO WATANABE BOP NIGHT 渡辺貞夫 バップ・ナイト」は、両公演ともチケット完売。多くのお客様が、やはりライブの機会を欲しているのを強く感じた。しかし、この頃から徐々に、感染再拡大の波が県内にも広がりがつあった。



地域資源を活かす企画に、声を出さずに参加する工夫を凝らして

**【出前公演】にっぽんこども劇場～浪曲わんだーらんど～
12月19日(土) 大日本報徳社(掛川市) (2公演) 28人**

大日本報徳社の大講堂(国指定重要文化財)は、「浪曲」の発展が始まった明治期に報徳運動の拠点として建てられ、現在も地域の人々に親しまれている。はじめて浪曲に出会う子どもたちにとって、「浪曲の世界」を体験するに相応しい場所の一つとして、会場に選んだ。来場者は声を出さずに楽しむ工夫を凝らし「にっぽんいち!」などの掛け声フリップを掲げて参加。出演者とともに浪曲を楽しんだ。



感染急拡大
令和3年1月8日、県主催イベントについて、次のような方針が出される。緊急事態宣言が発出され、ふじのくにシステムで「回避」の地域から出演者等の招聘は行わず、オンライン開催へ切り替え。対応が難しい公演は延期及び中止。これを受け、1月24日に菊川市文化会館アエルで予定していた「グランシップ静岡能」は出演者の招聘が叶わず中止を決めた。

歩みを止めず可能な限り公演を実施する

【出前公演】オーケストラ・アンサンブル金沢名曲コンサート

※出演者変更
令和3年1月24日(日) 三島市民文化会館 174人

静岡県より緊急事態宣言が発出された地域との移動を回避する方針が示され、指揮者の角田鋼亮氏、チェリストの宮田大氏の出演が叶わなくなり、公演内容の変更が余儀なくされた。そうした中でも、可能な限り期待に応えたいと内容を再考し、急遽、チェリストの横坂源氏(浜松市在住)に出演を依頼。宣言地域の楽団メンバー及び選曲を変更。立奏で、深みと厚みのある音色を会場に響かせ、客席には感極まって涙を流す人もいた。



「危険を感じながら、これまでの日常とかけ離れた生活をする日々が続く中、今日の午後、このわずかな時間だけは、皆さんを違う世界に誘いたい」
(リーダー・ヴァイオリン:アビゲイル・ヤング)

初めて聴いた横坂さんのチェロが素晴らしいかった(来場者)

楽団の織り成す音色に感動した(来場者)

こんな時期なのに静岡に来てくれて、こんなに素晴らしい音楽を聴かせてくれてありがとうと伝えたい(来場者)

状況に合わせた対策で、文化芸術ができることを

令和3年2月、二度目の緊急事態宣言が再延長された時期であったが、これまで実施してきた対策を徹底し、宣言地域からの出演者・関係者は検査を実施。公演を中止にせず、安全と安心を守りながら、文化芸術に触れられる機会を用意できた。



出前公演があって良かった!その声をこの先も大切にしたい

**上野耕平アウトリーチ
令和3年2月22日(月) 静岡県立小山高等学校 23人**

**【出前公演】上野耕平×三浦一馬×山中惇史トリオ
令和3年2月23日(火・祝) 長泉町文化センターベルフォーレ 369人**

公演を翌日に控えサクソフォン奏者の上野耕平氏による吹奏楽部へのレッスンを実施。学校行事や演奏会などが次々と中止になる中、プロの奏者からアンサンプルの本質を学べたことは、生徒たちにとってかけがえない経験となった。

公演には、音楽に取り組む学生が多数来場した。「圧巻だった」「オーケストラを聴いているようだった」と、鳴り止まない拍手に、予定にない二度目のアンコール曲目を特別に披露。ホールにいた誰もが興奮冷めやらぬ状態で終演を迎えた。



素晴らしい若手名手の生演奏を地元で堪能でき感無量だった(来場者)

学生にとっては静岡市まで行くのは難しいので長泉での開催で本当に良かった(来場者)

親子で日本の伝統芸能に親しみ、体験する

**【出前公演】にっぽんこども劇場～寄席わんだーらんど～
令和3年2月28日(日) 下田市民文化会館 (2公演) 117人**

**【出前公演】にっぽんこども劇場～能楽わんだーらんど～
令和3年3月27日(土) 御殿場市民文化会館 159人**

コロナ禍において、“本物”を見ることや体験する機会が少なくなっていた子どもたち。好奇心でいっぱいの表情で、日本の伝統芸能に親しむ様子がどちらの公演でも印象的であった。今後も、私たち静岡県文化財団は、子どものうちから上質で多彩な文化芸術を身近なものとして触れられる機会の創出に、なお一層取り組んでいきたいと考えている。



《タイムライン》

12/19	●出前「にっぽんこども劇場～浪曲わんだーらんど～」実施(掛川・大日本報徳社)
12/25	コロナ特措法改正検討「時短要請で給付金と罰則」
12/26	全世界からの外国人の新規入国12/28～1月末まで停止
1/7	1都3県に1/12～「緊急事態宣言」 県警戒レベル更新、緊急事態宣言発出地域との移動回避
1/8	●出前「ニューイヤークンサート」実施(静岡市民文化会館)※緊急事態宣言発出以前に出演者来静 県主催イベント開催方針が出される。 緊急事態宣言が発出され、「回避」指定地域から出演者等の招聘は行わず、オンライン開催へ切り替え。 できない場合はイベントの延期及び中止
1/12	県の警戒レベルをレベル5(特別警戒)に引き上げ →緊急事態宣言発出(1都3県)に加え、要請地域(栃木・岐阜・愛知・京都・大阪・兵庫)との往来回遊呼びかけ
1/13	7府県にも緊急事態宣言 合わせて11都府県に往来回遊(福岡県追加) ●1/24「グランシップ静岡能」中止発表 (緊急事態宣言発出の1都3県からの移動回避により、出演者来静できず)
1/15	県警戒レベル更新 全都道府県への不要不急の往来回遊呼びかけ ●1/25「中学生のためのオーケストラ」中止 ●1/24「OEK名曲コンサート」代役・プログラム全曲変更で開催決定
1/18	静岡県、独自の「感染拡大緊急警報」を発令
1/23	新型コロナ 国内の死者 5000人超える
1/24	●出前「オーケストラ・アンサンブル金沢 名曲コンサート」実施(三島市民文化会館)
1/27	世界の感染者1億人超える
2/1	緊急事態宣言 10都府県3月7日まで延長 栃木県は解除
2/8	県警戒レベルが5(特別警戒)から4(県内警戒、県外警戒)に変更「感染拡大緊急警報」解除
2/14	ワクチン 国内初の正式承認 米ファイザー製 厚労省 ●出前「みんなのコンサート～音と絵の世界旅行～」実施(菊川文化会館アエル)
2/17	ワクチン先行接種始まる 医療従事者 約4万人対象
2/20	●出前「仲達郁代 大作曲家のひみつ「ショパン」」実施(沼津市民文化センター)(完売)
2/22	●上野耕平OR実施(県立小山高校)
2/23	●出前「上野耕平×三浦一馬×山中惇史トリオ」実施(長泉町文化会館ベルフォーレ)(完売)
2/26	緊急事態宣言 首都圏を除く6府県 2月末で解除表明
2/28	●出前「にっぽんこども劇場～寄席わんだーらんど～」実施(下田市民文化会館)
3/5	首都圏1都3県の緊急事態宣言 2週間延長決定
3/21	首都圏1都3県の緊急事態宣言 解除
3/27	●出前「にっぽんこども劇場～能楽わんだーらんど～」実施(御殿場市民文化会館)
3/28	●文化講座「宇宙のはじまりとブラックホール」実施(10階1001会議室) 会場受講に加え、文化講座では初のオンライン配信



「ふじのくに文化情報センター」は平成27年度から県内の文化活動を側面的に支援するとともに、グランシップ企画事業を活用した人材育成に取り組んだ。なお「アーツカウンシルしずおか」の本格稼働に伴い、令和2年度末で「ふじのくに文化情報センター」は活動を終了した。

コロナ禍の貸館事業

「学術・文化及び芸術の振興並びに国内外との交流を図る」というグランシップの設置目的に沿って、複合施設の特徴を生かした貸館事業を実施した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により多くの大規模催事が中止・延期になったものの、県内の主催者や中小規模の催事を中心に、感染防止対策を徹底し安全・安心な利用に対応した。

①新型コロナウイルス感染防止の徹底

- サーモカメラの設置やアルコール消毒の実施により、コロナ禍でも安全安心に催事が開催できる環境を整えた。
- 主催者との事前の打ち合わせを詳細に行い、関係団体の感染拡大防止対策ガイドラインの調査及び遵守、また静岡県へのイベント開催におけるチェックリストの提出を行った。

②キャンセル等の対応

- やむを得ず催事を中止する利用者に対しては、一定の期間はキャンセル期限を問わず返金をした。
- 「静岡県イベント開催における感染防止ガイドライン」における定員数を超えた場合には、大きな会場への変更を差額を徴収せず促した。
 - ※コロナによる利用キャンセル……1,120件
 - ※コロナによる返金対応……479件

③講演会等の開催

コロナ禍における新しい生活様式に対応すべく、リアルとリモートを駆使したハイブリッドな学会の開催や、WEBセミナー・オンライン配信等の講演会にも対応した。

国際シンポジウム「ポストコロナの国際経済・国際情勢」
 主催：静岡県立大学グローバル地域センター
 8月26日(水) 会議ホール・風

経済・政治にとどまらず歴史、社会、文化におよぶアジアの地域間交流は新たな展開を示しつつあり、今回のシンポジウムでは、アジアのグローバル・ネットワークと地域間交流を長期の視野で見ながら、コロナ禍のなかで「ポストコロナの国際経済・国際情勢」をテーマに講演をオンライン配信にて行った。



④県内の文化活動支援としての貸館業務

広く県民に文化活動作品の発表や鑑賞をする機会を提供する事業に寄り添い、県民自ら行う文化活動を支えるべく、文化催事を実施した。

星野聡子モダンバレエ30周年記念公演
 三日月とクロワッサン
 主催：星野聡子モダンバレエスタジオ
 7月4日(土) 中ホール・大地

4月12日に開催予定だった公演を延期して実施。新型コロナウイルス感染症対策として、観客数を通常の定員の1/2以下に限定。マスク着用・アルコール消毒・検温・来場者氏名等の確認を徹底し、混乱なく公演を執り行った。コロナ禍において、感染拡大防止対策を講じた上での文化活動の発表及び鑑賞の場の一つのモデルケースとなった。



ふじのくに文化情報フォーラム『転換点～文化は何に学ぶのか～』

6年目となる令和2年度は初めてグランシップを飛び出しての開催。新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの日常も大きな変化を余儀なくされている現状において、「転換点」をテーマに、他分野から文化の視点に生かせることは何かを考えた。ゲスト達のこれまでの経験からは、「異質なものを受け入れることで新しいものが生まれる」、「試行錯誤や挫折が転換点となっていた」という共通点が見えてきた。参加者にとっても多様な生き方を通して転換点を考え、振り返る時間となり、今後の文化活動のヒントを得る機会となった。



- ①三島開催：11月3日(火・祝) 三島市民文化会館大会議室
参加者：会場14人、オンライン9人
- ②浜松開催：2月20日(土) 鴨江アートセンター
参加者：会場18人、オンライン10人



ふじのくに文化情報フォーラム 個別テーマ実践プログラム

これまでのフォーラム参加者が企画するプロジェクトにスポットをあて、文化活動のステップアップのためのワークショップを開催。グループごと課題分析や地域実態調査などを経て、今後の活動計画づくりと企画の実現を支援した。参加者からは、「コロナ禍において例年と異なる活動を余儀なくされている状況の中でも、これまでの活動を客観的に振り返り、課題や活動の優先事項を明確化することで、次年度に向けた計画がしっかり立てられた」という声があった。

10月10日(土)、11月7日(日)、12月5日(土) 参加者：21人(延べ人数)



ミニ講座「こかげのまなびば」

地域の文化芸術に携わる人々の交流・対話の場としてグランシップ休館中を除く毎月2回、開催した。令和2年度はオンラインの活用や出張企画も行った。



9月からの特定天井対策工事は、定例工程会議等により工事業者との連携を図り、工期通りに進める事が出来た。

利用者サービスの一層の向上

利用者ニーズに対応したサービスの向上を目指し、9月8日～令和3年2月28日の工事による全館休館期間を活用して、貸館相談窓口の移設や備品・設備の更新、ホームページの改修等を実施した。

貸館相談窓口の移設

- ・3階事務室にあった「貸館相談窓口」を、正面エントランスから近い2階エスカレーター横に移設し、利用者の利便性を高めた。利用者専用の打合せスペースも新設した。

ホームページの改修、利用者登録の簡略化

- ・ホームページに臨場感のある「館内施設360度ビュー」を掲載し、施設の様子を手軽に確認できる機能を追加した。
- ・利用者登録申請フォームを導入し、インターネット予約と合わせてペーパーレスでの予約を可能にした。

安全性の向上

- ・中央通用口からの入退館時に入館証の提示を徹底する等のルールを厳格化。正面エントランスへのサーモカメラ設置による発熱者の検知等により、防犯面及び衛生面の安全性向上を図った。



工事休館中の施設整備・地下練習室の貸出

工事休館中の施設整備

- ・WEB会議にも対応可能な大型モニターの導入
- ・利用の多い演台・司会者台、劣化の目立つ椅子等を更新
- ・10階会議室フロアの床タイルカーペットの張替え
- ・経年劣化や長年の利用により汚損が目立つ、展示ギャラリーの壁の塗装
- ・1階エントランスと会議室内の照明をLED化し省エネと明るさの改善を実現



演台・司会者台



展示ギャラリー

地下リハーサル室・練習室の貸し出し

和太鼓や吹奏楽等大音量の音楽練習に対応した施設が市内に少なく、工事期間中の練習室貸し出しを利用者から要望されていた。その声に応えるため、貸し出しを実施し、練習場所の確保に苦慮している利用者の文化活動を支援した。

貸出施設……リハーサル室、練習室1・2
利用実績……延べ16日、46コマ



ふじのくに#エールアートプロジェクト

コロナ禍で公演自粛等に伴い収入減となった文化芸術の担い手を救済・支援するプロジェクト。静岡県の新型コロナウイルス感染症緊急対策事業を、ふじのくに文化情報センターが事務局となり7月から実施した。

ワンストップ相談窓口

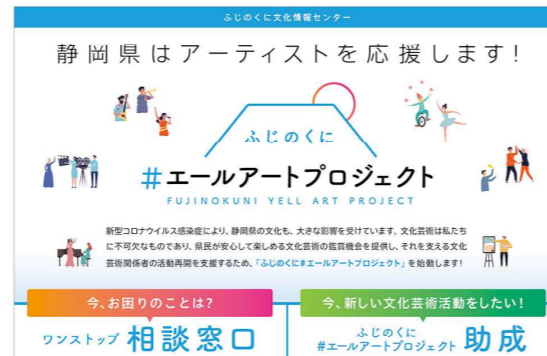
静岡県内で文化芸術活動を行うアーティストや文化拠点の運営者、舞台技術やイベント運営に関わる方、アマチュア活動家等をサポートする相談窓口として、税理士や中小企業診断士、弁護士等による税務相談、法律相談を実施するとともに、新しい生活様式に対応した文化芸術活動に係る相談に応じた。

〈相談事例〉

- ・新しい表現方法、発信方法を考えたい。
- ・再開に向けて安全に活動を行うにはどのようにしたらよいか。
- ・自分がどのようなサポートを受けられるかわからない。
- ・継続的に活動をしていくために、経営に対するアドバイスが欲しい。 など

ふじのくに#エールアートプロジェクト事業費助成金

静岡県内のプロのアーティスト等が行う、「新しい生活様式」に対応した文化芸術活動を支援。「感染症対策の制約を新たな表現に生かす演出」「オンラインの有効活用」など、アーティストの視点を生かした創造的な企画に対し事業の経費を支援した。



取り組み事例



音楽青葉会 コンサートシリーズvol.45



TERART (持塚三樹)

アーツカウンシルしずおか

住民主体の創造的活動を促進するプラットフォームとして、まちづくりや観光、国際交流、福祉、教育、産業など社会の様々な分野の担い手による地域の活性化や社会課題への対応を目指す創造的な取組を支援するため、令和3年1月に新たに「アーツカウンシルしずおか」を設置した。

アーツカウンシル長には静岡県文化プログラムチーフ・オペレーティング・ディレクターの加藤種男氏が就任した。



アーツカウンシルしずおか
ARTS COUNCIL SHIZUOKA

1 文化芸術の振興

(1) グランシップ企画事業

年間を通じてのコロナ禍により、中止・延期をせざるを得ない事業が多くあった。一方で子どもを中心に地域、世代、障がいの有無に関わりなく、幅広く県民が文化芸術に触れる場づくりのため、安心・安全の確保に努め、感染拡大防止対策の徹底、WEBの活用等により、4つの戦略目標である、音楽を中心とした現代舞台芸術、伝統芸能、文芸・美術、子ども・子育て世代への支援の実現に向け、上質で多彩な鑑賞事業、県民参加型事業、教育普及事業、アウトリーチ事業に取り組んだ。

特に9月からの長期休館中には、より身近な場所で文化芸術に触れる機会を創出するため、県内の市町や団体との積極的な事業の連携を図り、芸術公演が少ない地域や学校での出前公演やアウトリーチを積極的に展開した。

戦略目標別の内訳 ※カッコ内は再掲

戦略目標	事業本数	入場参加者数
① 音楽文化等の普及・振興	15事業	15,175人
② 伝統芸能の継承	11事業	1,982人
③ 文芸・美術等の振興	3事業	358人
④ 子ども・子育て世代への支援	4事業 (16事業)	99,862人 (2,012人)
合計	33事業 (16事業)	117,377人 (2,012人)

事業形態別の内訳

方針	事業本数	入場参加者数
ア 上質で多彩な鑑賞事業 ・国内外の上質で多彩な芸術を鑑賞する機会の提供	11事業	3,316人
イ 誰もが参加できる県民参加型事業 ・県民がステージに立つことのできる場の提供	6事業	111,847人
ウ 関心・理解・親しみを深める教育普及事業 ・文化芸術の素晴らしさを体感し、さらなる興味を持ってもらう機会の提供	8事業	1,287人
エ ワークショップから公演まで様々なアウトリーチ事業 ・普段文化施設に来られない、あるいは生の文化芸術に触れる機会が少ない地域や学校等での公演実施	8事業	927人
合計	33事業	117,377人

新たなグランシップファン獲得のための取り組み

● 広報・宣伝の展開

広報対象に合わせた実施計画を立てるとともに、販売状況に即応した広報媒体を活用した広報・宣伝を展開した。なお、一部休館明けの令和3年3月にホームページをリニューアルした。

● 若い世代等の取り込み

コロナ禍により多くの人が生の文化芸術に触れにくい状況の中で、WEB会議や電子チケットのシステム導入、また講座のオンライン受講など、デジタル化への対応は元より、新たな鑑賞者層の獲得に向けた取り組みを行った。

● 中高生等への鑑賞支援策

子どものうちから上質で多彩な文化芸術に身近に触れる機会を提供するため、引き続き、各公演の学生チケット料金(28歳以下の学生、子ども)を原則1,000円で設定した。

高校生アートラリー

参加館数	対象公演数	チケット料金
23館	101公演 (うち5割弱の公演が中止)	学生料金として1,000円から2,000円が大半

また、コロナ禍のため、中高生の芸術鑑賞を促進する中高生鑑賞プラン及び中高生芸術鑑賞支援制度による交通費支援及び県内の公立ホールと連携した「高校生アートラリー事業」の利用は低調だった。

● 県外への広報

「トレインフェスタ」、「音楽の広場」、「こどものくに」などのオリジナル性が高い静岡県を代表する事業がいずれも中止となったが、WEBを活用した情報発信に取り組み、事業の認知度を高めた。

(2) 文化支援

ふじのくに文化情報センター

文化支援の県域のセンターとして、県内各地で中核的に文化活動や文化支援に取り組む団体等との横断的なネットワークづくりを進めた。また、「ふじのくに文化情報フォーラム個別テーマ実践プログラム」を実施し、交流と研修の場づくりの充実を図った。なお「アーツカウンシルしずおか」の本格稼働に伴い、令和2年度末で「ふじのくに文化情報センター」は活動を終了した。

● 静岡県文化情報サイト「ふじのくに文化情報」の利用促進

文化芸術活動に取り組む人をはじめ誰もが利用しやすいサイトを目指し、コンテンツの充実を図った。また、登録された県内の文化芸術催事情報の一部を情報誌「GRANSHIP」にも掲載し、情報発信の多様化を図った。

登録団体等・施設数 (令和3年3月31日時点)

文化団体	アーティスト	貸施設
315団体	135人	155施設

アクセス数(延べ数)

対象期間	表示ページ数	アクセス数
4,1~R3,3,31	延べ1,454,951ページ	324,535人

● 総合相談窓口の運営

面接、電話、メールによる総合案内役として相談窓口を運営した。

相談件数	主な相談内容
56件	助成、活動、事業の企画

ミニ講座「こかげのまなびば」

実施日	[グランシップ開催] 6月から毎月2回(隔週水曜日等)18時30分~ ※グランシップ休館中は除く [出張開催] 8,29(土)14時~ [動画配信] 5,20(水)、6,27(水)、7,10(水)
会場	[グランシップ開催] 1階大ホール南ホワイエ [出張開催] 三島市民活動センター
概要	・文化団体や中間支援組織、アーティスト等の講師と参加者が情報やアイデアを交換、交流する場 ・毎回のテーマは文化支援や地域の文化活動に関する事項 ・実施回数 グランシップ開催7回(参加者150人) 出張開催1回(参加者19人)、動画配信3回

● 交流と研修の場づくり

交流と研修・情報収集の場として開催する「こかげのまなびば」や「ふじのくに文化情報フォーラム」は、他会場の利用やオンラインを活用して実施した。また、文化活動を支援するワークショップ「個別テーマ実践プログラム」を実施。文化団体の交流の場づくりから活動の実践までの継続的な支援を進めた。

● ふじのくに文化情報フォーラム

種類	ふじのくに文化情報フォーラム in 三島	ふじのくに文化情報フォーラム in 浜松
実施日	11.3(火・祝)	R3,2,20(土)
会場	三島市民文化会館大会議室	鴨江アートセンター
参加人数	会場14人、オンライン9人	会場18人、オンライン10人
概要	参加方法:会場参加及びオンライン参加(いずれも事前申込制) ・オリエンテーション ・トークセッション「転換点~文化は何に学ぶのか~」 ①ゲストによるエピソードトーク ②ゲストとのトークセッション ③参加者も交えたミックストークセッション	

種類	ふじのくに文化情報フォーラム2020 個別テーマ実践プログラム		
概要	ふじのくに文化情報フォーラムに参加した文化活動実践者が取り組むプロジェクトについて、グループワークを通じて、課題分析や地域実態調査などを踏まえ、今後の活動計画づくりをする実践的なワークショップ 【3つのプロジェクト】 A「あなたの大切な記憶をアートのかたみに」 リーダー:青木三枝(おかえりの森) B「おとどけ劇場を定番化したい!子ども病棟や施設への寄付公演を軌道にのせ、オープンしていくには?」 リーダー:関根淳子(SPAC俳優、劇団音乃屋)		
講師	山浦晴男(情報工房代表)		
実施日	10.10(日)	11.7(土)	12.5(土)
内容	問題意識地図の作成 ・参加者6人	資源写真地図の作成 ・参加者8人	解決策地図と実行計画の作成 ・参加者7人

● 文化活動団体の顕彰等

県内の文化活動を発展、振興していくため、新たな地域文化の創造を目指し多彩で優れた文化活動団体を顕彰した。

地域文化活動団体顕彰事業

区分	団体名	所在地
地域文化活動賞	古谿荘に親む会	富士市
奨励賞	上野演劇サークル「チョンマの会」	富士宮市
	掛川市子どもの読書活動を考える会	掛川市
	次郎長翁を知る会	静岡市
努力賞	フィルハーモニックウインズ浜松	浜松市
	三島宗祇法師の会	三島市

●ふじのくに#エールアートプロジェクト促進事業

県の新型コロナウイルス感染症緊急対策事業である「ふじのくに#エールアートプロジェクト促進事業」をふじのくに文化情報センター事業として実施した。

相談事業

設置期間	7.15～R3.3.15
相談件数	401件
相談内容	助成制度、税務など運営関係、新しい生活様式を取り入れた芸術文化活動 など

助成金支援事業

	第1次募集	第2次募集
募集期間	7.27～8.14	R3.2.1～2.15
申請件数	162件	140件
交付実績(交付決定)	57件・51,623千円	(52件・49,602千円)

グランシップ企画事業を活用した人材育成

県内の公立文化施設職員の資質向上や交流を促進し、地域の文化活動団体、アウトリーチに関係する教育関係者、福祉関係者、文化行政関係者とのネットワークを強化するため「静岡県公立ホール連携支援研修事業」や大学生を対象としたインターンシップは、コロナ禍で当初の計画を変更し実施した。

また、実演による文化芸術を県内各地で提供するため、グランシップアウトリーチ登録アーティストを育成して、県内公立文化施設、教育機関と連携しながら音楽アウトリーチを実施した。

	静岡県公立ホール連携支援研修	登録アーティストアウトリーチ	インターンシップ
対象	県内公立文化施設職員	登録アーティスト	大学生
期間・回数	9月～12月(8回)	5月～R3.3月(13回)	7月～9月(13回)
参加人員	研修生13人、聴講生5人、延べ135人	登録アーティスト延べ29人、未就学児・小学生等844人	8人 延べ79人

さらに、財団が文化支援事業やグランシップ企画事業で培ってきたノウハウを活かして、県から受託した「子どもが文化と出会う機会創出事業」を県内のプロオーケストラと協働し、県内各地を巡る地域訪問プログラムや未就学児対象コンサートとして実施した。

助成金支援事業

	開催回数	学校数	参加者数
地域訪問プログラム	30回	27校	2,976人
未就学児対象コンサート	24回	—	2,615人
計	54回	27校	5,591人

※中止、変更は13回

(3) 文化プログラムに対する取り組み

グランシップオリジナル文化プログラム

グランシップオリジナル文化プログラムとして、「トレインフェスタ」、「世界のこども劇場」、「音楽の広場」、「NHK交響楽団×野平一郎プロジェクトシリーズⅢ」、「宮城まり子とねむの木の子どもたちサマーコンサート」を計画していたが、いずれもコロナ禍により中止または次年度へ延期となった。

関係機関と連携した文化プログラム

国、組織委員会、静岡県文化プログラム推進委員会と連携し、全県的なオリンピック・パラリンピックムーブメントの醸成に努めるため、東京2020参画プログラム及び静岡県文化プログラムに積極的に申請し、認証を受けた。

なお、県域プログラム「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」及び提携公演制度等を活用した「詩と舞踊と音楽の祭典『ふじのくにものがたり』」、「SPAC『忠臣蔵』」は、コロナ禍で令和3年度に延期となった。延期となっていた令和元年度の県域プログラム「静岡県郷土唱歌を歌おう」は、提携公演として取り組んだ。

	東京2020参画プログラム	静岡県文化プログラム
認証件数	15件(うち8件中止・延期)	62件(うち25件中止・延期)

文化カプロジェクト環境整備事業

●ふじのくに文化プログラム推進事業助成

東京オリンピック・パラリンピック大会の開催を機に、県内の多彩な文化芸術活動や「ささえる」活動を発展・継承し県内外に発信するため、文化団体に対して助成した。

また、団体補助の助成団体については、定期的な面談により、活動状況の確認と意見交換を実施した。

事業補助

	補助団体名(所在地)	対象事業名
1	アートひかり(藤枝市)	「Japan Tea 物語」
2	うつろいの住処展実行委員会(御殿場市)	おやま豊門芸術祭「うつろいの住処」展
計	2 団体	—

※事業補助は13団体に交付決定をしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で11団体の事業が中止となった。

団体補助

	補助団体名(所在地)	対象事業名
1	シズオカオーケストラ(静岡市)	持続可能な団体運営のための新体制づくりと情報発信
2	NPO法人伊豆学研究会(伊豆の国市)	文化財の調査担い手活動
3	浜松ジュニア・ユース邦楽合奏団(浜松市)	日本の伝統音楽体験による人材育成活動
4	アルテ・ブラーサ(三島市)	新たな地域の文化創造～異分野と協働したアートプログラム開発と地域拠点検討～
5	富士の山ビエンナーレ実行委員会(富士市)	Fujinoyama ART HUB 運営計画
6	NPO法人音楽の架け橋メセナ静岡(静岡市)	多世代にまたがる文化事業とまちおこし事業に関わるボランティアスタッフ確保のための調査事業と実践
7	うきうきプロジェクト(静岡市)	オペラ公演のためのスキルアップ勉強会
8	街カル実行委員会(静岡市)	文化講師&ものづくり作家への「活動の場」提供支援と情報発信事業
9	演劇ユニットFOX WORKS(浜松市)	多目的コミュニティスペース「Sketchbook Theater」運営及びメンバーのスキル養成
計	9団体	—
事業・団体補助合計		11団体

●本県の魅力掘り起こしと発信に係る事業

後世に伝えるべき文化的魅力の掘り起こしとともに、過去から未来を展望する視点に重きを置く新しい書籍「しずおか文化」を刊行し、県内図書館(大学を含む)、高校、特別支援学校、県内市町等に配布した。

書籍名	規格	発行部数	執筆者
駿河と甲斐の蜜月時代がやってくる ～中部横断自動車道が描く静岡と山梨の未来像～	四六判 本文196頁	1,000部	・玉置実(一般財団法人静岡経済研究所) ・「しずおか文化」編集部

●次世代を担う中高生が文化芸術に触れる機会を創出する事業

文化プログラムを推進するとともに、次世代を担う県内の中高生に、上質で多彩な文化芸術に触れてもらう機会を創出する事業である交通費支援制度は、コロナ禍のため利用がなかった。

2 アーツカウンシルしずおか

静岡県において、住民主体の創造的活動を促進するプラットフォームとして、社会の様々な分野の担い手による地域の活性化や社会課題への対応を目指した創造的な取組を支援するアーツカウンシル事業を令和3年1月より開始した。

なお、令和2年度は「文化芸術による地域振興プログラム」を公募し、助成金対象事業を選定するため、審査会を開催した。(助成対象事業は令和3年4月下旬決定)

助成の対象		助成金額上限	助成率	応募総数
事業区分	対象			
地域はばたき支援	地域資源の活用や社会課題への対応を目指す先駆的な取組で、他地域や当該分野のモデルとして県内外に発信するプログラム	5,000千円	助成対象経費の4分の3以内又は2分の1以内 ※1	8団体
地域かがやき支援	地域資源の活用や社会課題への対応を目指す先駆的なプログラム	2,000千円		17団体
地域はじまり支援	地域資源の活用や社会課題への対応を目指す先駆的なプログラムの実施に向けた試行的な取組	300千円	助成算定経費※2の10分の10	10団体
計				35団体

※1 助成率上限

※2 助成事業の実施に要する経費から補助金、負担金、その他の収入(自己資金を除く)を控除した額のうち助成対象経費に該当する経費)

	プログラムの実施者	助成率上限
ア	非営利の民間団体・グループ(市町の外郭団体、公立文化施設の指定管理者、学校、公益法人、市町が加わる実行委員会等は除く。)	4分の3以内
イ	上記ア以外の団体・グループ(企業、市町の外郭団体、公立文化施設の指定管理者、学校、公益法人、市町が加わる実行委員会等)	2分の1以内

3 グランシップ管理運営事業

施設の適正な維持管理及び貸館業務等の円滑な運営を通じて、学術・文化・芸術の振興と、国内外との交流を推進した。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、サーモカメラによる検温、入館者用消毒アルコールの設置、使用頻度の高い箇所の消毒・清掃の強化等安全の確保に努めた。

やむを得ず催事を中止する利用者に対しては、キャンセル期限を問わず返金するなど、柔軟に対応した。

・入館者数…39,417人

※開館(平成11年3月)以来の入館者総数 14,928,106人(令和3年3月31日現在)

(1) 貸館

主要施設の稼働実績

	大ホール	中ホール	交流ホール	会議ホール	展示ギャラリー	ホール系計
稼働実績A	30日	23日	27日	20日	48日	148日
利用可能日数B	144日	139日	150日	148日	176日	757日
稼働率A/B	20.8%	16.5%	18.0%	13.5%	27.3%	19.6%

※会議室、練習室等を含めた施設全体の稼働率は31.4%。

新型コロナウイルス感染症の影響によるキャンセル日数等

	大ホール	中ホール	交流ホール	会議ホール	展示ギャラリー	ホール系計
キャンセル日数C	43日	46日	8日	14日	15日	126日
キャンセル率C/(A+C)	58.9%	66.7%	22.9%	41.2%	23.8%	46.0%

※キャンセル期限以降にキャンセルに応じたもの

利用者サービスの一層の向上

サービスの向上を目指し、全ての利用者に対してアンケート調査を実施するとともに利用者会議を開催し、利用者ニーズを把握・分析し改善を図った。

また、弁当の手配やパーティー開催などの催事開催支援サービス(ワンストップサービス)では、利用者ニーズを調査し、提供するメニューの拡充に努めた。

○業務改善の推進

- ・貸館相談窓口を、3階事務室からエントランスホール近くの2階エスカレーター横に移設
- ・館内施設の臨場感ある「360度ビュー」WEB公開による施設紹介
- ・WEB会議にも対応可能な大型モニターの導入や利用の多い演台・司会者台等を更新
- ・展示ギャラリーの壁の塗装
- ・エントランスと会議室の照明をLED化し省エネと明るさ改善を実現
- ・利用者の意見が書かれた「使用結果報告書」における指摘事項の迅速な対応の徹底

○中小会議室(100人未満)

- ・従来、来館を要していた利用者登録手続きをホームページ上で受付可能とし、手続きの簡略化を実現
- ・WEBを活用した中小会議室・練習室の予約率は59.2%を確保

○利用者会議の開催

○催事終了後のアンケート

利用者会議の開催

開催日	R3.3.18(木)
場所	グランシップ904会議室
参加者	イベント企画・運営事業者 5団体5人
意見内容	館内のデジタル化の促進 等

催事終了後のアンケート結果

回答数	1,137件/1,493件(回答率76.1%)	
結果	施設・備品が使いやすい	89.1%
	館内サインがわかりやすい	87.8%
	スタッフの対応が良い	90.6%

積極的な営業活動

貸館の優先予約制度を活用し、全国規模の学会・大会の予約を積極的に受け入れた。また、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、電話・メール等による営業に重点を置いた。

大規模催事の誘致

コロナ禍で対応が難しい中ではあるが、県内外のコンベンション等を誘致し施設利用の拡大を図るため、電話・メール等による営業を行い、するが企画観光局、ツインメッセ静岡、静岡市民文化会館等と連絡会を設け、誘致に向けた情報交換を行った。特に、ツインメッセ静岡とはコンベンション共同誘致の協定のもと、互いの催事情報を共有し連携を図った。

(2) 維持管理

安全・安心・快適な施設管理

グランシップ指定管理者として施設管理、警備、清掃、舞台技術の各業務の専門業者を配置し、適切に管理運営を行った。

9月から令和3年2月までの特定天井対策工事は、定例工程会議等により工事業者との連携を図り、工期通りに完了することができた。また令和3年3月からの一部開館に向けて、利用者に清潔かつ快適な状態で施設の提供を図るため、展示ギャラリーの壁の塗装や利用が多い会議室のカーペット張替えなど、営業中には実施困難な館内修繕を工事休館に合わせ前倒しで行った。

ユニバーサルデザインに配慮した施設運営

すべての来館者が、安心して利用できる施設とするため、防災訓練の中で、障害のある方への対応等、様々な来館者に対応するための研修を実施した。

省エネルギーと環境負荷の低減

エネルギー監理員主導による効率的なエネルギーの運用を徹底するため、財団及び各常駐事業者等からなる「省エネルギー推進委員会」を毎月開催して、館全体で省エネルギーと環境負荷低減に取り組んだ。

なお、エネルギー使用実績は、新型コロナウイルスや工事休館の影響で、電気が対前年比で約7割、ガスが約4割の使用量であった。

エネルギー使用実績

電 気	3,758,830 kWh
ガ ス	265,769 m ³
エネルギー総量	48,741 GJ

販わい創出

静岡県立美術館、静岡市美術館、静岡市が東静岡駅北側を中心に静岡市内各所を会場に協働で取り組んでいる「めぐりアート」と連携し、グランシップ館内に作品を展示する「めぐりアート+(プラス)」と、映像ホールを活用したレコードコンサートにも引き続き取り組み、親しみやすい文化振興の拠点としての環境づくりを進めた。

めぐりアート+(プラス)作品展示

展示期間	作 者	作 品 名
4.18~9.7	石上和弘	船に浮かぶ形/船が浮く形
R3.3.1~	乾 久子	ことばのまわり~船とゆく~

レコードコンサート

開 催 日	回 数	参加者数
6.19 / 8.21	2回	84人

※コロナウイルス対策で人数制限実施。R3.3月は感染拡大の防止のため中止。



石上和弘(彫刻家)



乾 久子(美術家)

駐車場管理、自動販売機等管理

来館者サービスの向上を図るよう、適切・丁寧な駐車場管理を行った。また、館内設置の自動販売機・公衆電話等は、全館休館期間は工事エリア以外にて設置し管理運営した。(自動販売機15台・公衆電話3台)

収入実績	
駐車場収入	9,263千円
自動販売機等設置手数料	4,086千円

(3) サポート組織

文化振興に関心があり、文化活動に積極的な県民の自主的な参加・参画を得て、グランシップの円滑な事業運営を図った。なお、文化情報業務はふじのくに文化情報センターがアーツカウンシルしずおかに移管されたため、令和3年3月末で終了した。

(令和3年3月31日時点)

業務区分	内 容	登録者数
広 報	ダイレクトメール発送、広報勉強会、来館者見学案内等	61人
イベント	受付、もぎり、資料配布、会場案内、避難誘導等	54人
撮 影	イベント・公演時の記録撮影、記録写真の整理等	14人
託 児	公演時の託児サービス等	7人
文化情報	静岡県文化情報総合サイト「しずおかの文化情報」の運営等	18人
計	(兼務10人を含む)	154人

※新型コロナウイルスの感染防止策に応じて業務内容を一部変更

(4) 危機管理とリスクマネジメント

「火災・地震・風水害等の災害が発生した際の対応」を危機管理、また「前記以外の事故・故障・苦情・不審物等のリスクへの対応」をリスクマネジメントと定義し、それぞれの体制を確立して、来館者の安心・安全と信頼の確保に努めた。

危機管理

災害時における来館者の安全確保に万全を期すため、財団職員だけでなく、常駐委託業者スタッフも参加した防災訓練を実施した。また、発災時の迅速な初動態勢の確立のため、毎日の朝・夕礼時に自衛消防隊の編成を確認した。

消防計画の見直しを行い、南海トラフ地震臨時情報発令時や風水害時の市からの避難情報発令時の対策を盛り込んだ。

リスクマネジメント

故障による機器類の停止等の回避・低減のため、消耗品の事前交換など適切な維持管理を行った。また異常・故障発生時には、来館者への影響を最小とするため、適切な応急措置を直ちに講じ、修繕を行うとともに、財団で実施できない修繕については、県へ迅速に報告し、指示を受けた。

新型コロナウイルス感染症対策については、消毒薬の設置や清掃頻度を増やし、注意喚起ポスターの掲示、財団職員及び常駐職員の健康管理の徹底を行うとともに、サーモカメラの導入や感染防止方針を制定し、更なる感染拡大防止及び館内衛生強化の対策を講じた。

4 グランシップ友の会

入会状況 (令和3年3月31日時点)

友の会個人会員数	11,680人			
		特別会員	一般会員	計
友の会法人会員数		4社	18社	22社

5 文化財団法人運営

(1) 広報・宣伝

新聞広告や情報誌「GRANSHIP」、ホームページ等の自己媒体による情報提供をはじめ、ブログやモニター制度等の双方向性のある手段を組み合わせ、効果的な情報発信に取り組んだ。

広報調整会議の開催

財団、グランシップ全体の広報・宣伝計画を策定し、毎月1回、広報調整会議を開催し、情報提供時期、媒体等の効果的・効率的な情報発信に取り組んだ。なお、一方的な広報・宣伝だけでなく、県民や利用者の声を広く集め、運営に反映させるため、アンケートやモニター制度などによりニーズの把握に努めた。

多様な媒体、手段の活用

既存の媒体とインターネット等の新たな媒体を効率的・効果的に組み合わせながら、様々な世代に合わせた広報・宣伝に引き続き取り組んだ。

特に、情報誌「GRANSHIP」では、引き続き、県内の文化プログラムの取り組みや「地球環境史ミュージアム」「富士山世界遺産センター」の紹介ページを設け、地域の文化芸術活動情報を幅広く提供するとともにコロナ禍でのグランシップの取り組みを積極的に紹介した。

(2) 働きやすい職場づくり

人材育成

●契約職員の正規職員化等

平成28年度から正規職員への登用試験を導入している。

また、外部講師によるハラスメント研修を開催するなど職場環境の向上に取り組んだ。

●専門的人材の育成

職員が最新の専門知識、技術を習得できる機会を確保するため、全国公立文化施設協会主催の外部専門研修(2年度はオンライン研修)に職員を積極的に参加させた。休館日に開催する財団内の職員研修では、財団事業計画や指定管理者事業計画を含めた財団の運営状況などもテーマに開催した。また、少人数の職員グループを編成しワークショップ的に職員それぞれの業務紹介や取り組み、課題などを話し合い、アドバイスなど意見交換を行うことで財団への理解や職員間のつながりが深まり、よい効果を得た。

●効果的な評価制度の運用

勤務実績が優秀な職員に対し、特別研修(職員自ら、取得したい資格、鑑賞したい文化芸術催事、参考にしたい施設等を自由に選び計画したものに対し、財団が費用負担する)を実施した。

仕事と生活を両立できる職場づくり

●労働時間の適切な管理

労働法令及び労使協定を順守し、職員の出退勤の把握、時間外勤務の事前申請の徹底等、労働時間の管理を適切に実施した。新型コロナウイルス感染予防対策も含め、在宅勤務にも取り組んだ。

また、各々の職員が勤務時間を自己管理し、効率的に業務を進めることができるよう、職員研修等を通じて制度の周知、意識啓発を実施した。

●健康管理とストレスチェックの導入

職員の定期健康診断や人間ドックを実施するとともに、労働安全衛生法に基づくストレスチェックも自己管理に活かす手段として導入した。

●育児・介護休業制度の適切な運用

法令改正に依拠した育児・介護休業等に関する規程に基づき、育児短時間勤務制度等を運用した。また、育児や介護を理由に退職した職員が復職できる制度を創設し、令和2年度から1人を再雇用した。

(3) 安定した財務管理

収入確保の取組

令和2年度は9月から2月まで全館休館の期間を活用して、全館リニューアルオープンに向け、利用者増による収入の確保を図るため、利用者サービスの向上や営業方針の見直しを行った。

また、中止や変更となった企画事業については、(独)日本芸術文化振興会等の補助金の積極的な活用を図った。

なお、4月下旬から5月中旬の緊急事態宣言による臨時休館や感染拡大に伴う利用キャンセルに対する施設利用料の還付(返還)金は、県と協議の上、グランシップ指定管理料として補填を受けた。

執行調整会議の開催

常に財団の財務状況を把握し、適時適切な対応ができる体制を維持するため、毎月1回執行調整会議を開催し、各月の予算執行状況や光熱水費の推移を確認するとともに、月次決算及び上半期終了時の中間決算を実施した。

令和2年度 新型コロナウイルス感染症の影響により中止した公演等

ジャンル	日程	催事名	会場	中止等
上質多彩	5月5日(火・祝)・6日(水・休)	グランシップ世界のこども劇場2020	(グランシップ)中ホール・大地	中止
アウトリーチ	5月14日(木)、5月18日(月)	伝統芸能普及プログラム<教育普及事業>歌舞伎レクチャー	(静岡市) 静岡大学教育学部附属島田中学校、 駿河学院専門学校、城南静岡中学校	中止
アウトリーチ	5月18日(月)	伝統芸能普及プログラム<大学連携事業>歌舞伎レクチャー	(グランシップ)映像ホール	中止
県民参加	5月31日(日)	ふじのくに伝統芸能フェスティバル	(富士宮市)富士宮市民文化会館 他	R3年6月6日(日)に延期 会場:長泉町文化会館ベルフォーレ ※R2年7月19日(日)にグランシップ中ホールにて特別公演 「夏越の奏〜天の鼓〜」を計画したが中止。関係者のみを対象とし、県内民俗芸能団体の紹介を実施、入場者36人
教育普及	6月23日(火)	国立劇場歌舞伎鑑賞教室	(グランシップ)中ホール・大地	中止
県民参加	7月26日(日)	【提携公演】詩と舞踊と音楽の祭典〜ふじのくにものがたり〜	(グランシップ)中ホール・大地	R3年5月23日(日)に延期、会場変更 会場:清水文化会館マリナート
県民参加	8月16日(日)	【共催公演】SPAC 忠臣蔵2020	(グランシップ)大ホール・海	R3年6月5日(土)・6日(日)に延期、会場変更 会場:静岡県舞台芸術公園 野外劇場 有度
県民参加	8月16日(日)	第41回学生音楽コンクール2020(本選)	(グランシップ)中ホール・大地	中止
上質多彩	8月22日(土)	NHK交響楽団×野平一郎プロジェクトシリーズIII	(グランシップ)中ホール・大地	R4年3月6日(日)に延期
県民参加	8月30日(日)	宮城まり子とねむの木のかどもたちサマーコンサート	(グランシップ)中ホール・大地	R3年11月28日(日)に延期
上質多彩	9月11日(金)	【出前公演】カニサレス〜情熱のフラメンコ・ギター〜	(焼津市)焼津文化会館	中止
アウトリーチ	10月4日(日)	詩人と語ろう!ことばを語ろう!	(三島市)三島市民文化会館	中止
教育普及	10月15日(木)	ウィーン国際文化協会教育普及事業	(浜松市)静岡県立浜松江之島高校 他	中止
上質多彩	12月5日(土)	【出前公演】シュトゥットガルト室内管弦楽団名曲コンサート	(焼津市)大井川文化会館ミュージコ	中止
アウトリーチ	12月11日(金)、12月18日(金)	【グランシップ子どもアート体験!】玉川奈々福の浪曲教室	(焼津市、島田市) 焼津市立焼津南小学校、 島田市立初倉小学校	中止
上質多彩	1月24日(日)	【出前公演】グランシップ静岡能	(菊川市)菊川文化会館アエル	中止
教育普及	1月25日(月)	【出前公演】中学生のためのオーケストラ	(三島市)三島市民文化会館	中止
教育普及	未定	仲道郁代 常葉連続レクチャー	(静岡市)常葉大学	中止

令和2年度 主な貸館事業

区分	開催日	催事名	主催者名	主な使用施設
音楽・演劇・ダンス等	7月4日(土)	星野聡子モダンバレエスタジオ30周年記念公演 三日月とクロワッサン	星野聡子モダンバレエスタジオ	中ホール・大地
大会・式典・講演等	7月18日(土)	株式会社アイエイアイ経営計画中間報告会	株式会社 アイエイアイ	大ホール・海
試験	7月28日(火)	令和2年度静岡県製菓衛生師試験	静岡県健康福祉部生活衛生局衛生課	会議ホール・風
大会・式典・講演等	8月15日(土)	静岡市戦没者を追悼し平和を祈念する式典	静霊奉賛会静岡市支部	中ホール・大地
試験	8月23日(日)	令和2年度第1回運行管理者国家試験(旅客)	一般社団法人静岡県バス協会	会議ホール・風
大会・式典・講演等	8月26日(水)	国際シンポジウム「ポストコロナの国際経済、国際情勢」	静岡県立大学グローバル地域センター	会議ホール・風
大会・式典・講演等	8月29日(土)	第2回SING Live研究会	SING Live研究会	9階会議室
音楽・演劇・ダンス等	9月6日(日)	Shizuoka ダンスコレクション in 2020	静岡県ダンススポーツ連盟	大ホール・海

令和2年度（公財）静岡県文化財団決算状況

(単位:円)

科 目	公益目的事業		収益事業等			法人会計	内部取引消去	合 計
	文化・芸術	収益事業	友の会	小計				
I 一般正味財産増減の部								
1 経常増減の部								
(1) 経常収益								
基本財産運用益	3,623,983	0	0	0	2,415,989			6,039,972
特定資産運用益	0	0	0	0	90,000			90,000
事業収益	654,653,938	332,879,417	6,003,468	338,882,885	7,232,714	△1,277,815		999,491,722
受取補助金等	90,776,011	1,403,040	0	1,403,040	0			92,179,051
受取負担金	753,883	0	0	0	0			753,883
受取寄付金	0	0	0	0	0			0
特別賛助会員会費	100,000	0	0	0	0			100,000
雑収益	0	1,044,707	0	1,044,707	6,500			1,051,207
経常収益計	749,907,815	335,327,164	6,003,468	341,330,632	9,745,203	△1,277,815		1,099,705,835
(2) 経常費用								
事業費	738,233,959	321,895,265	6,986,753	328,882,018	0	△1,277,815		1,065,838,162
管理費	0	0	0	0	16,801,394			16,801,394
経常費用計	738,233,959	321,895,265	6,986,753	328,882,018	16,801,394	△1,277,815		1,082,639,556
(3) 評価損益等計	0	0	0	0	0			0
当期経常増減額	11,673,856	13,431,899	△983,285	12,448,614	△7,056,191	0		17,066,279
2 経常外増減の部								
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0			0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0			0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0			0
3 他会計振替額	4,181,882	△11,238,073	0	△11,238,073	7,056,191			0
4 法人税、住民税等	0	722,900	0	722,900	0			722,900
当期一般正味財産増減額	15,855,738	1,470,926	△983,285	487,641	0	0		16,343,379
一般正味財産期首残高	87,669,189	195,766,495	12,276,409	208,042,904	338,780	0		296,050,873
一般正味財産期末残高	103,524,927	197,237,421	11,293,124	208,530,545	338,780	0		312,394,252
II 指定正味財産増減の部								
(1) 基本財産評価益	34,020	0	0	0	22,680			56,700
(2) 基本財産評価損	2,822,728	0	0	0	1,881,818			4,704,546
当期指定正味財産増減額	△2,788,708	0	0	0	△1,859,138			△4,647,846
指定正味財産期首残高	629,898,252	0	0	0	419,932,167			1,049,830,419
指定正味財産期末残高	627,109,544	0	0	0	418,073,029			1,045,182,573
III 正味財産期末残高	730,634,471	197,237,421	11,293,124	208,530,545	418,411,809			1,357,576,825

静岡県文化財団・グランシップの沿革

昭和59年5月	● 財団法人静岡県文化財団設立(基本財産出捐総額:県9億円、市町村1億円、県民等171万円) 「文化鑑賞の提供事業」:地域音楽公演 「地域文化の振興事業」:文化団体への助成 「文化意識の啓発事業」:地域文化活動の顕彰 「文化情報の提供事業」:静岡の文化の発行
昭和60年1月	● 季刊「静岡の文化」創刊号発行
平成6年	● (財)静岡県文化財団10周年記念出版「今川時代とその文化」発行
平成6年3月	● 東静岡都市拠点総合整備委員会より施設の導入機能について知事に提言
平成7年12月	● 静岡県が県民国際プラザ(仮称)建築工着手
平成8年	● 静岡県は県民国際プラザ(仮称)の名称を「静岡県コンベンションアーツセンター」、愛称を全国公募により「グランシップ」に決定
平成10年8月	● グランシップ建物竣工
平成10年11月	● (財)静岡県文化財団がグランシップ管理運営業務受託、テストラン実施(~11年2月)
平成11年3月13日	● グランシップ開館
平成11年3月~	● グランシップ開館記念事業開催(アニメーションワークス、バルーンアートフェスティバル 他)
平成11年12月	● グランシップ来館者100万人達成
平成12年2月~	● グランシップ開館1周年記念事業開催(ガーデニングフェスティバル、モーツァルト!モーツァルト!モーツァルト! 他)
平成14年1月~	● グランシップ開館3周年記念事業開催(わんぱく2002ほか)
平成16年3月~	● グランシップ開館5周年記念事業開催(糸操り人形「夢の浮橋~人形たちの『源氏物語』」、新作能「利休」 他)
平成17年2月	● グランシップ来館者500万人達成
平成18年4月	● (財)静岡県文化財団がグランシップ指定管理者として管理運営業務受託(3年間)
平成20年2月~	● グランシップ開館10周年記念事業(オペラ「椿姫」、北大路魯山人展 他)
平成21年4月	● (財)静岡県文化財団がグランシップ第2期指定管理者として管理運営業務受託(3年間)
平成23年2月	● 季刊「しずおか文化」100号で廃刊、新たに「しずおか文化新書」(県内の文化にまつわる事柄をテーマとして取り上げ、記録し、保存する新書)発行
平成23年4月	● 文化団体への助成を見直し、「ふじのくに文化芸術振興助成」制度開始 地域音楽公演に代わり、「中高生芸術鑑賞支援(県内の中高生がグランシップで芸術鑑賞する場合に交通費を支援)事業開始
平成24年2月	● グランシップ来館者1,000万人達成
平成24年4月	● (財)静岡県文化財団がグランシップ第3期指定管理者として管理運営業務受託(5年間)
平成24年12月	● グランシップと中国浙江省杭州劇院が友好交流協定締結
平成25年4月	● 公益財団法人静岡県文化財団としてスタート
平成26年5月	● 石塚正孝が第3代グランシップ館長に就任
平成26年8~11月	● グランシップ安全対策改修工事(26年5~11月)に伴い完全休館、12月1日再オープン
平成27年3月末	● 新情報誌「GRANSHIP」発刊
平成27年4月	● グランシップ友の会個人会員新制度が発足
平成27年5月	● 貸館受付を1階インフォメーションへ移動、「催事開催支援サービス」開始
平成27年7月	● 鈴木壽美子理事が第4代理事長に就任
平成29年4月	● (公財)静岡県文化財団がグランシップ第4期指定管理者として管理運営業務受託(5年間)
平成31年3月~	● グランシップ開館20周年記念事業開催(春の音楽祭等)
令和2年9月~	● グランシップ特定天井対策工事に伴い完全休館、3月1日一部再オープン
令和3年1月	● (公財)静岡県文化財団内に「アーツカウンシルしずおか」を設置

グランシップ 概要

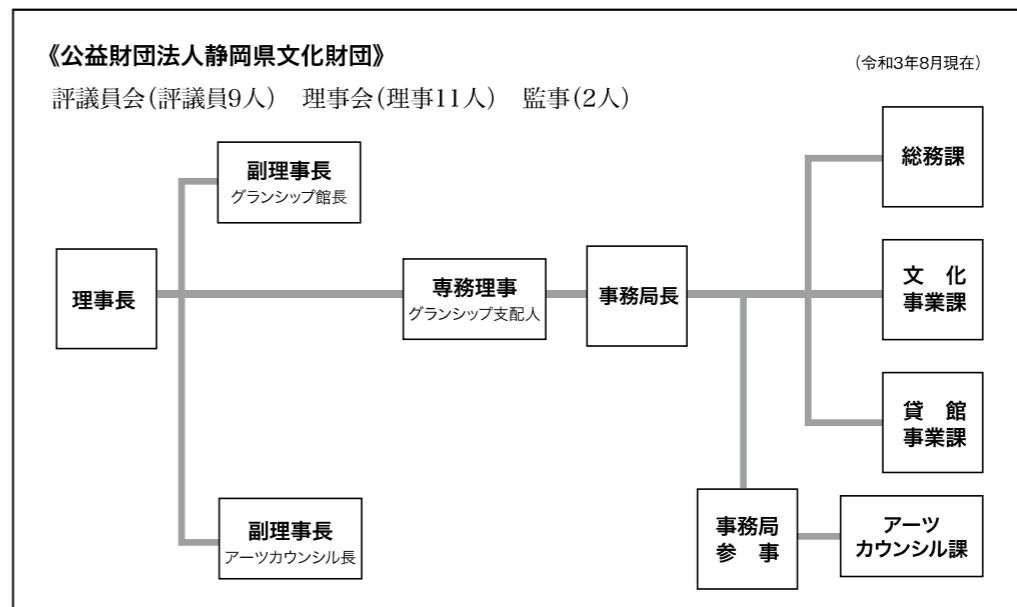
正式名称	静岡県コンベンションアーツセンター
所在地	静岡県静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号
開館時間	午前9時~午後10時
休館日	不定期、12月29日~1月3日
敷地面積	36,009.5㎡
建築面積	13,647.3㎡
延床面積	60,630.0㎡
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造
階数	地上12階、地下2階
建物全長	約200m
最大幅	約80m
最高高さ	約60m
開館	平成11年3月13日
駐車場	約400台

グランシップ利用状況

年度	大ホール	中ホール	交流ホール	会議ホール	展示ギャラリー	全体平均
平成30年	81.3	87.1	84.5	82.4	83.6	84.6
令和元年	79.1	79.7	76.2	74.1	77.9	78.2
令和2年	20.8	16.5	18.0	13.5	27.3	19.6

※R2.9月~R3.2月は工事により全館休館。R3.3月も一部休館。

年度	来館者数	累計
平成30年	590,327	14,253,088
令和元年	635,805	14,888,893
令和2年	39,417	16,928,106



- ### 《グランシップ運営体制》
- グランシップサポーター
 - 【舞台設備運営】株式会社ステージ・ループ静岡
 - 【設備保守・インフォメーション】株式会社イノウエテクニカ
 - 【警備】株式会社コアズ
 - 【清掃】静岡県ビルメンテナンス協同組合
 - 【レストラン・ケータリング】株式会社なすび